

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

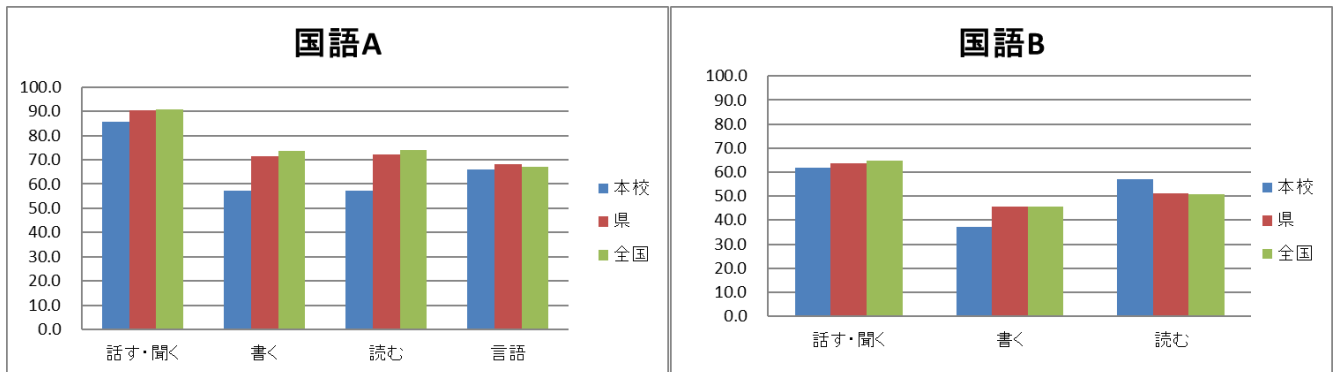
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題とも、全国・県平均を下回った。A問題・B問題ともに「書く」領域が大きく下回っていた。複数の正答条件全てを満たさないといけないために、惜しい誤答が多かった。難解な文章問題が続くB問題の「読む」領域は、全国・県を上回る結果であった。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・話し合いの場面で、「司会者がどんな意見を求めているのか意図を理解し、発表者の意見に対して、立場を明らかにして考えを表現する設問」の正答率が低かった。各教科での設問や教師の発問に対しての適切な答え方の指導や、学級活動、児童生徒会活動、ブロック集会等を活用して、問われたことに対して考えを速やかにまとめて明確に答える経験を数多く積むことを、継続して取り組んでいく必要がある。

書く

・「給食のメニューのよさを、『①提示された資料から引用して書く。②紹介文にふさわしい言葉で書く。③50字以上80字以内で書く。』という3つの条件を満たして書く」設問の正答率が低かった。複数の資料から必要な記述を選び、相手意識を持って伝えやすいように再構成する力を、国語の説明文、社会科の資料活用、総合的な学習の調べ学習などで、培っていく必要がある。

読む

・「目的に応じて必要な情報を捉える」「情景描写から登場人物の心情を捉える」設問の正答率が低かった。授業の中でも、状況や心情の変化を示す叙述に気をつけながら、文章を読み解く力が身につくように指導する必要がある。

言語事項

・漢字の読み書きはおおむねできていた。敬語の設問での正答率が低かった。目上の人や先生に対しての「尊敬語」は日ごろからきちんと身につけているが、身内の行動を「謙譲語」で表現することは、なかなか経験することがなく、難しかったようである。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 国語の授業を中心に、「読む」「書く」「聞く」「話す」といった力を身につけます。また、獲得した国語力を他教科に活かす授業を仕組んでいきます。
- 特に、相手に考え伝えるための方法を理解させ、思考力、表現力の向上を図ります。
- 朝の読書、読み語り等、**読書の充実を図り**、主体的に読書に取り組む子どもを育てます。

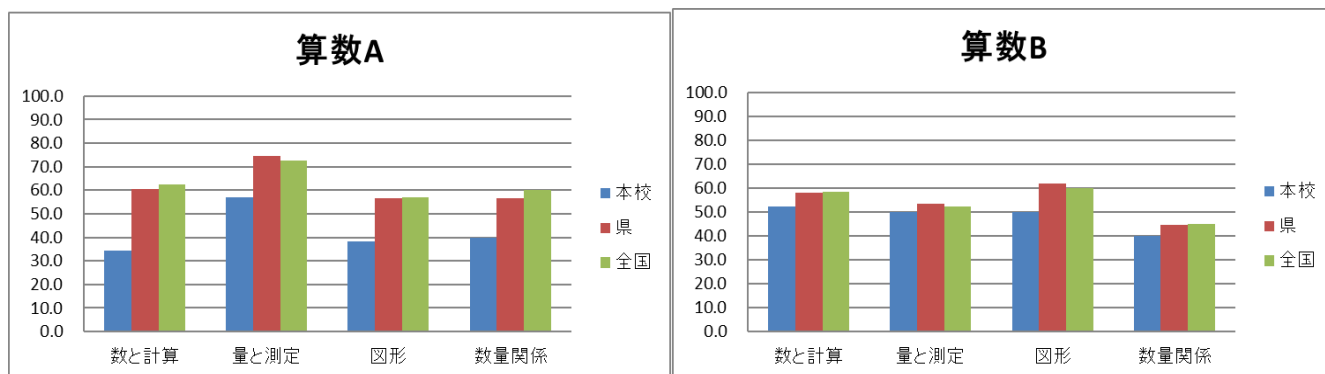
【ご家庭では次のことをお願いします】

- 読書で語彙力を増やしましょう。
- お子さんと会話を増やすことが大切です。**聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話し、共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流してください。
- 漢字、音読の学習で、**頑張っているところを見て、誉めてあげてください。**

2 算数

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題とも、全国・県平均を下回った。特に、A問題の正答率が、全国・県と比較して大きく低かったことは大きな課題として受け止め、下学年の学習内容の復習から丁寧に取り組み、個々のつまづきに応じて補充学習を継続して行い、中学部へ進学させなければならない。

(2) 成果と課題

数と計算

・「数の除法、対応数直線で1あたりの大きさを示す」設問の正答率が低かった。特に「○mで□gの棒・・・1mでは何g？1gでは何m？」という問題では、整数のときは比較的できていても、小数や分数になると、とたんにイメージできなくなってしまう児童が多い。対応数直線は中学年から丁寧に扱っていく必要がある。

量と測定

・「込み具合を求める」設問の正答率が低かった。商の値の意味を捉え、「1m²あたりの人数が多いほど混んでいるはず」「一人当たりの面積は小さいほど混んでいるはず」という、感覚を身につけさせる必要がある。

図形

・「正三角形と正六角形が敷き詰められた模様を角の集まりと捉えて、合計360度であることを説明する」設問の正答率が低かった。「正三角形の1つの角は60度」「正六角形の1つの角は120度」と知っていても、それを活用できるかが大切である。きまりを使って説明する、証明する活動を数多く取り入れる必要がある。

数量関係

・「棒グラフで示された資料と、気づきのメモを関連付ける」設問の正答率が低かった。気づきの例示が、資料をどういう視点で見たのか読み取れていない児童が多かった。算数・理科・社会の学習でも、統計資料を見て自分の気づきを発表することはできているが、他者の気づきに対しても、「資料のどこに着目して言っているのか」考えさせたり、代わって説明させたり、多面的な見方を共有する学習を展開していく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

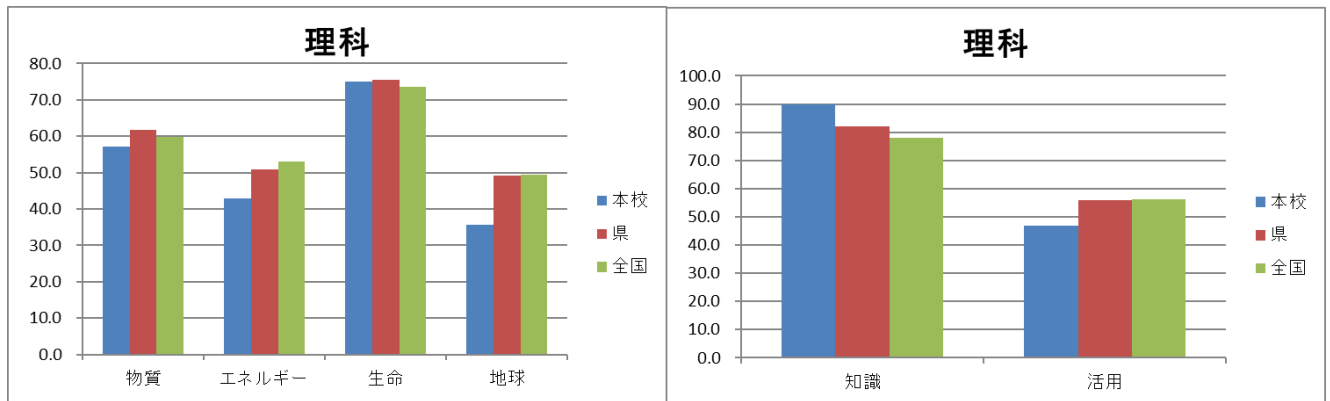
- 火曜日・金曜日の放課後に「友愛タイム」（プリントでの補充学習）に取り組み、**基礎・基本の四則計算の定着、単元ごとの確実な習熟**をめざします。
- 授業では、「つかむ→見通す→考える→深める→まとめる」北山校授業モデルに全学級で取り組み、論理的思考力を高め、**自分の考えを筋道立てて説明できる力**をつけるよう努めます。
- 小中一貫校の強みを生かし、中学部教諭の乗り入れ授業を行い、中学校の学習に繋がります。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- テスト結果だけでなく、お子さんがどんな問題が得意で、どんな問題が苦手なのか、家庭学習の様子に目を向け、**励ましや称賛の言葉**をかけてあげてください。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。**学校で習った算数を使う生活場面を作ってあげてください。**「おかし数えてかけ算」「おかし分けて割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」…身のまわりには算数を使える場面が意外とあります。

(1) 結果

全国正答率との比較



知識を問う問題は、県・全国を上回っているが、活用力を問う問題は下回った。領域別では、A区分の「エネルギー」、B区分の「地球」が、かなり下回っている。用語や器具の取り扱い、実験方法などの知識としては理解しているが、応用、活用する能力が身につけていない課題が明らかとなった。

(2) 成果と課題

A区分(物質・エネルギー)

- ・ろ過の仕方や回路のつなぎ方など、実験のやり方については、少人数で一人ひとりきちんと実験を行っていることもあり、きちんと理解していた。
- ・「太陽は東から昇って西に沈む」ことは理解していても、「一部穴が開いた箱の中に、午後光が当たるようにどのように光電池を向ければいいのか考える」設問の正答率が低かった。気象の学習で得た知識と電気の学習で得た知識をつないだり、下学年の既習の学習を想起させたり、系統的に指導していく必要がある。

B区分(生命・地球)

- ・人体の「関節」、川の流れの「堆積」等の用語については、正答率が高く、用語を丁寧に扱う指導の効果が上がってきている。
- ・川の流れの実験で、外側は侵食し内側は堆積することは理解できていたが、「流す水の量を変えるとどうなるか実験結果から考察する」設問の正答率が低かった。実験する際、児童が予想や仮説を立て、検証する方法を考え、どのような結果が得られればその考えを証明できるのか、明確にすることを継続して指導していく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 一人ひとりが実験や観察ができる理科室・学校園の**環境整備を推進**します。
- 授業では、めあてを明らかにし、それを確かめる方法を考え、実験や観察で得られた結果からどのようなことが言えるか考察し、根拠や理由を示しながら結論を導く、**論理的思考力を高める理科の授業スタイルの定着**を図ります。
- 理科の学習で得られた知識を生活場面や身近に起きている現象にあてはめたり、生活の中で使われている道具などの仕組み等に注目したり、実生活との関連を図ります。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、**理科好き な子に育つことにつながります**。テレビや新聞でも、「気象」「宇宙」「火山」「地震」…ニュースでたくさんの事象が報道されています。ぜひ話題にされて、**お子さんが科学や自然について目を向ける機会を増やしてあげてください**。
- 本校は山に囲まれており、夕刻の月や星の観察等が難しい地理的条件です。月や星の動きについては、夜若干遅い時間帯に観察することになります。ご家庭の協力をお願いいたします。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校%	全国平均 %
朝食を毎日食べている。	85.7	94.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	85.7	77.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	100.0	88.8
平日読書を30分以上している。	28.6	40.4
平日読書は30分未満である。	71.4	58.7
地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。	85.7	19.9
新聞をほぼ毎日読んでいる。	14.3	7.4
テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る。	14.3	57.3

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムはおおむね身につけている。読書については、学校での朝読書や図書室祭りなど読書に親しむ取組をしており、図書館の本の貸し出し冊数も年々増加しているが、家庭ではあまり読書をしていない実態が現れている

本校は極少数で、限られた地域の中で生活している。アンケートの結果からも、地域との関わりが強い反面、テレビや新聞等のニュースで社会の情勢等について知ろうという意識は低い。授業中、社会科や理科等で用語が出てきた際、常識的に知っているであろうと思う言葉を知らないことも多く、自分たちの生活以外での出来事にも関心を示し、見聞を広げてほしいところである。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	0.0	29.3
平日1～2時間勉強している。	57.1	36.9
平日0～1時間勉強している。	42.9	33.7
家で、学校の宿題をしている。	100.0	97.1
家で、授業の予習・復習をしている。	85.7	62.6

家庭学習については、日々の宿題や自学にはきちんと取り組んでいる。学校では、きちんと宿題が提出されているかを確認し、宿題の間違い直しについてはその日のうちに行っている。6年生にしては家庭学習の時間が短いと思われる。

宿題以外の予習・復習についても、自学ノートを活用し、習慣が身についてきた。しかし、自学の内容については、自分が取り組みやすいものを行う傾向があり、本人が苦手なことに挑戦したり、教師から一部課題を指定したりするなど、内容の質を高めていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 宿題として「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に毎日出します。自主学習（自学）についても、お手本になる**自学ノート**を掲示したり、工夫を凝らした自学ノートを書いた児童を称賛したりすることで、意欲を持って自主学習に取り組むようにしていきます。
- 「**家勉強がんばろう週間カード**」や「**学校評価アンケート**」をもとに、**生活習慣や学習習慣についての個別指導**を続けていきます。
- 「**立腰**」に取り組み、集中して学習することを、今後も全学年で取り組んでいきます。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- 「**家庭学習の手引き**」を参考に、家庭学習の内容を確認され、**自学ノート**の確認をしていただき励ましていただくことで、より児童の自主的な学習態度が育まれていくと思われま。
- 食事中、家庭学習中の姿勢等、家庭でも「立腰」**の取り組みへの協力をお願いします。
- テレビや新聞のニュースや、クイズ番組や旅番組などでも、今の社会情勢や国内外のいろんな地域の歴史や文化を学べます。ぜひ家族みんなで子どもたちの世界を広げてあげましょう。